

いわかけ

— No. 112 — 2007, 8, 24

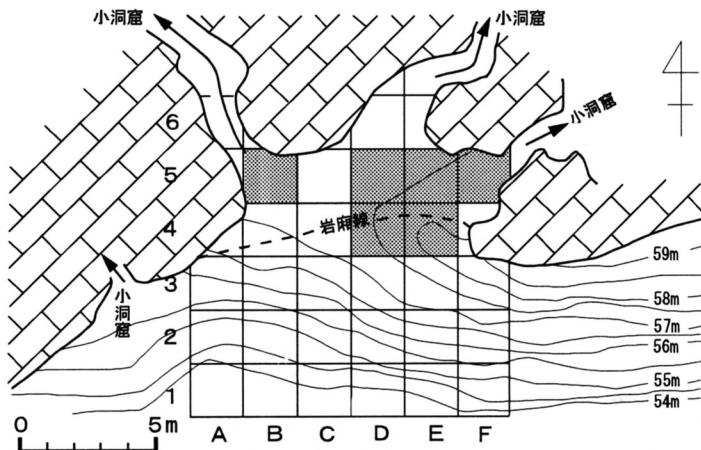
広島大学文学研究科考古学研究室・
帝釈峡遺跡群発掘調査室



2007年度 帝釈峡遺跡群・庄原市佐田崎墓群発掘調査 II期 (8月19日から8月24日)

帝釈大風呂洞窟遺跡第12次調査II期

本遺跡は、広島県神石高原町永野字大風呂に所在し、西日本屈指の縄文時代遺跡として知られる観音堂洞窟遺跡の真上に位置しています。洞窟は南に開口しており、間口幅は約11m、奥行きは約4m、岩窟の高さが3~3.5m



です。現在のところ、この遺跡は縄文時代草創

第1図 帝釈大風呂洞窟遺跡調査区配置図
(網掛け部が今年度の調査予定範囲)

期から古代・中世にかけて断続的に利用されていたと考えられています。

今期はD-4区2層の大型崩落礫のすぐ下から出土した弥生土器の調査が大きな目的です。本遺跡では今まで弥生時代の生活の痕跡は見つかっておらず、今年初めて確認されたものです。現在のところ、壺一個体分とみられる、接合しそうな土器片が多数見つかっており、崩落した礫の下敷きになって割れたと考えられます。弥生時代の生活面を調査するにあたって、2層のどこまでが古代・中世層で、どこからが弥生層なのかわからないので、その年代を知るために2層の土・カーボン(炭化物)を採取しています。これらを炭素14年代測定と花粉分析にかけて、将来的にはおよそその年代を出していきたいと思います。

また、他の区ではI期から引き続き古代・中世の第2層を掘り進め、縄文時代後期の第3層の上面を全体に出すことができました。III期からは縄文時代の第3層を本格的に掘り進めしていく予定です。同時にF-5区で赤褐色の焼土面が2ヶ所発見され、調査の結果、双方と

も第3層のすぐ上に位置し、広がりは小さく薄いことが判明しました。このことから、この地点が長期間火処として使用されてはいたと推測されます。

このⅡ期では、弥生土器の他、土器片、石器、動物骨、貝片などが出土しました。

また、今調査期間中の8月23日には、神石高原町教育委員会が実施した「帝釈峡遺跡群発掘現場見学、発掘体験～一日考古学者～」で神石高原町の小学生9人が発掘体験に来てくれました。実際に遺跡に入っての発掘や、掘った土を川の水で洗いながらふるいにかける水洗作業も体験してもらいました。子供たちの記憶に残る体験になればと思います。

(3年 森賀 康太)



帝釈大風呂洞窟遺跡で発掘体験をする小学生

コラム1 宿舎での共同生活

ここ、帝釈峡の宿舎における生活が始まり、早三日が経ちました。現在、私たちは二十人以上の大人数で発掘調査を中心とした生活を送っています。食事や掃除などは当番制なのですが、大人数の食事を作るのは量の加減も分からず、難しいです。ですが発掘に行った人たちが帰ってきて「今日のご飯おいしかったよ」と言われると、とても嬉しくなります。

宿舎から帰って夕食が終わると、それぞれの遺跡ごとにその日の作業内容や次の日の予定についてのミーティングを行い、各人での勉強や準備などをします。このときには先輩からいろいろな情報や知識を教えていただくことができ、とても勉強になります。

簡単な説明ですが、このような生活の中で先生や先輩、同級生そして他大学の方々などと新しい人間関係ができつつあり、自分自身の視野もだいぶ広がっていると確信しています。今後も困難なことに何度もぶつかると思いますが、自分にプラスになることは積極的に行動し、得るもの多い発掘調査にしていきたいと思います。(3年 若月美佳)

コラム2 紋～bittersweet memories～

「はあ、はあ…ふう、きついな…」

二年ぶりに大風呂遺跡に登った私はその道のりのきつさに少し驚いてしまった。

しかし、この急な道のり（縄文時代当時は現在よりも道のりは楽なものだと思うが）を学生たちが汗を搔きながらみな元気よく列をなして登っていく、毎年の風物詩である。この経験がチームの学生同士の絆をぐっと深めてくれる。

今日もいつも通り登って行くときふと思つた、人も時代も変わっていくけれどこの風物詩は来年も再来年もずっと続いていって欲しいと。（4年 田中慎一）

コラム3 帝釈峡で得たもの

私は今回、帝釈大風呂洞窟遺跡の発掘に参加しております。初めてこの遺跡を目についたとき、私はかつてここに住んでいた縄文人の姿を思い浮かべて心が躍らずにはいられませんでした。観音堂と大風呂の間の険しい坂道を、当時の人々はどのような目的で、どれくらいの頻度で行き来していたのかということに大変興味がそそられたのです。

また実際に自分で掘り進めたり、水洗をしたりしていると、帝釈峡の石灰岩にしてやられることが多く有りました。つまり自分が発見したものが石鎌か、土器片かと胸が一瞬高鳴っても、次の瞬間に先輩方にそれは単なる石だと教えられショックを受けることが多くあったのです。私はこのようなことから自分の経験の足りなさをひしひしと感じ、やはり考古学を学ぶには本を読むだけではなく、実際に多くの遺物にあたり、発掘に参加して自ら作業し、手で触れることが必要なのだと痛感しました。そういう意味で、今回帝釈の大自然の中で、普段の大学の講義や実習では得られないものを多く得られましたし、やりがいのある、楽しい日々を過ごしております。そしてこれからも残された帝釈での一瞬一瞬を大切にし、日々新しいことをどんどん学び取って行きたいと思っています。（2年 谷口早季）



帝釈大風呂洞窟遺跡の作業風景

コラム4 「いただきます・ごちそうさまでした」

この言葉を深い感謝の気持ちと一緒に言ったことは、おそらく一度もありません。僕がこの調査に参加して一番深く感じたことは、もちろん発掘調査に対する感動や驚きはありましたが、ご飯に関することです。僕はこの調査に参加する以前はひどい食生活を送っていました。自炊はほとんどしないし、夜一食しか食べなかつたりおやつだけで一日過ごすこともしばしばありました。そういう不規則な食生活や一人暮らしもあって「いただきます」や「ごちそうさまでした」も言わないことも多かったです。

ですが今回参加して調査一日目、午前中の慣れない現場や環境、緊張感もあって予想以上にくたくたになっていたときに、何気なしに食べたお弁当が本当においしく感じられました。汗水たらして働いたことや美しい大自然の中だったこと也有って、これ程おいしく感じたことは今まで生きてきた21年間のうちでもそうそうありませんでした。また食事当番もやりました。僕は簡単な作業しかできませんでしたが、決められた時間までに食事を準備することの難しさをひしひしと感じました。実家にいるときは、ご飯なんて時間になつたら出来ていて当然だと思っていた自分が恥ずかしいです。母に面と向かって言うのは恥ずかしいですが、せめて帰省したときはしっかり感謝して食べようと思います。

当たり前のようにすごく大切なことに気づいた21歳の夏休みでした。これからは感謝の気持ちを込めて言おうと思います。「いただきます。」「ごちそうさまでした。」

(工学部4年 鎌田勝也)

佐田岬墳墓群

佐田岬墳墓群は主原市宮内町に所在する弥生時代の墳墓遺跡です。当遺跡の南側には佐田谷墳墓群という遺跡があり、佐田岬墳墓群と佐田谷墳墓群はほぼ同じ時期に属すると考えられています。四隅突出型墳丘墓の初現形態の可能性がある遺跡もあります。四隅突出型墳丘墓とは、今からおよそ2000年前の弥生時代中期後葉に広島県北部で発生し、北陸地方にまで広まつた墓の形態で、長方形台状の四隅が外側に張り出した形状の墳丘墓です。

この佐田岬墳墓群ですが、本格的な調査は今年が初年度となります。8月6日～8月11日までの調査第Ⅰ期では測量調査のために必要な測量杭を佐田岬墳墓群に設置し、それらの

国土地標を算出しました。これは正確な地形図を作製するための準備段階となります。また、これをを利用して8月19日～8月24日までの第Ⅱ期からは、いよいよ平板測量による地形図の作製を始めました。佐田峠墳墓群は大きく北西と東に分かれているのですが、まずは北西の墓域の測量から行っています。

ところで、佐田峠墳墓群は以前に庄原市教育委員会によって予備調査が行

われているのですが、その際に土器や石器がいくつか出土しています。本期は調査研究の為、それらの土器を教育委員会から借り受けた土器を調べてみると、三次市の塩町遺跡を名祖とする、つまり塩町から出土し、ここを名前の由来とする塩町式土器が出土していることが分かりました。塩町式土器は佐田谷墳墓群や他の遺跡からも出土しており、佐田峠墳墓群と他の遺跡との関係性もこれから探っていかなければなりません。そして、初現期の四隅突出型墳墓の性格とその展開をこの遺跡を通して明らかにしていくと考えています。

また、8月23日には『庄原市こども文化財探検隊』の皆さんか調査の現場を訪れました。探検隊の皆さんには佐田峠墳墓群の見学、現在行っている測量作業の体験をしていただいたのですが、初めて見る器具、初めて行う作業に最初は戸惑っていたようです。最終的には無事に測量図へ等高線を書き入れることができ、作業を行う子供たちの笑顔を見ることができたので、私たちにとっても、新鮮で楽しい見学会となりました。(3年 谷真由美)



佐田峠墳墓群の調査風景

人物往来

8月19日 広島大学理学研究科 狩野彰宏先生

大学院生 堀真子

学部生 鈴木将司 ほか

8月19～22日 京都大学 石丸恵利子

8月19～20日 鳥取大学医学部 井上先生・江田先生

参加者名簿（Ⅱ期 8月18日～8月24日）

広島大学大学院文学研究科
教授 古瀬清秀
准教授 竹広文明
准教授 野島永
大学院生 斎藤礼・松波静香・山手貴生（M1生）
広島大学文学部学生
田中慎一（4年生）
兼弘奈津枝・斎藤友紀・谷真由美
森賀康太（以上3年生）
谷口早季・谷本光紀・細石朋希・横山瑛一
若月美佳（以上2年生）
広島大学工学部学生 鎌田勝也（4年生）
愛知教育大学大学院研究生 中川良平・西岡佑一郎
関西学院大学学部生 真田陽平
同志社大学文学部 大本朋弥
鳥取大学医学部 井上先生・江田先生

陣中見舞い

石丸さん お菓子
井上さん 野菜
鳥取大学 井上先生・江田先生
ビール・ジュース
大本さん お菓子
広島県教委 沖さん ジュース
狩野先生 ビール
渓山荘 おもち
庄原市教委 ビール
神石町高原教育委員会の皆様
ビール・ジュース
広島大学 世羅さん ビール
竹原市 高橋さん・芦刈さん・村尾さん
お菓子・飲料
考古学研究室14生 荒平さん・下元さん・
谷岡さん・八重樫さん 飲料・缶詰

他にも遺跡に訪れていただいた方など、大変お世話になりました。ありがとうございます。

編集後記

調査期間も折り返しを過ぎ、両遺跡とも順調に調査が進んで成果が現れてきました。残り一週間となりましたが、より多くの情報を集められるよう一日一日を大切に調査に励んでいきたいと思います。また、現場のほうにも機会がございましたらぜひ足を運んでください。お待ちしております。（編集 松波）

お知らせ

以下の日程で帝釈大風呂洞窟遺跡の現地説明会を開催します。ぜひご参加ください。
日時：8月29日（水）午前10時30分～昼。ご参加を希望される方は、当日10時30分に遺跡上り口（観音堂洞窟遺跡前）に山道を登りやすい服装と靴でお越しください。

広島大学考古学研究室 〒739-8522 東広島市鏡山1-2-3 (Tel:0824-24-6663)

帝釈峡遺跡発掘調査室 〒729-5554 庄原市東城町帝釈末渡原 (Tel:08477-6-0101)

研究室ホームページURL <http://home.hiroshima-u.ac.jp/kouko>